



下農生のちよつとイイ話

しも
のう
せい
下農生の

ちよつと
イイ話



はじめに

下伊那農業高校には、初代校長芝原彦十先生が揮毫された「瑞氣満堂」(ずいきどうにみつる)の扁額があります。これは、よいこと(瑞氣)が学校(堂)に満ちているということです。

今、下伊那農業高校にいと、生徒のいい話、心がホッコリする話などが聞こえてきます。これらを見たり聞いたりした先生たちが、下農生をはじめ、多くの人たちに知ってもらおうと活字にしました。まだまだあるよという声が聞こえそうですが、とりあえず六十話にまとめました。必ずしも文体を統一していませんが、どこからでも、軽い気持ちで読んでください。素晴らしい下農生がこの冊子に詰まっています。

これからも、下農生のいい話があそこにもここにも溢れ、「瑞氣満堂」の言葉が似合う下伊那農業高校でありたいと願っています。

平成二十八年三月

長野県下伊那農業高等学校教職員

はじめに	1
目次	2

農学校の生徒の優しさに感謝	4
たった一口でも	5
農学校の生徒は癒し	6
孫が畑の仕事を手伝ってくれる	6
祖父のようなアスパラをつくりたい	7
下農の生徒であれば採用したい	7
お姉ちゃんのように優しい人になつてね	8
のり巻きとおせち料理を作ってくれた	9
僕がつくるんです	9
お父さんも頑張るから頑張れ	10
お母さんがいるみたい	11
お風呂に入れてゆつくり休んでください	12
資格が活かされた	12
あんなこと絶対に言つてはいけない	13
お客さんが来るところだもんね	13
もう一度生まれ変われるものなら行きたい	14

ライトで照らそうとした生徒	15
汗をかいて一生懸命取り組んでいる	15
下農で学びたい	16
生徒のために本当にご苦労様です	16
下農で学んでよかった	17
先生！自動ドア	17
下農はいい子がたくさんいる学校だね	18
届けてくれた	18
貴校の生徒は宝です	19
行動が自然	19
保母さんにむいている生徒	20
家に年寄りがいるかもしれねえな	20
周りの人を大切にできるやさしい生徒	21
必ず手伝ってくれる	21
自信がついた生徒	22
ご苦労さん	22
商売は商い（あきない）	23
心から感謝していると伝えてほしい	24

親子二代で使う楽器	25
下農が有名になるといいね	25
先生にも優しい思いやりのある班長	26
先生、誕生日おめでとう！	27
気づいたところですぐ動ける	27
相手を思いやるその一言	28
登山者にも元気を与えている	29
農業高校の先生になりたい	30
いつも、つくったものを届けているよ	30
美味しいものができるんだね	31
困った人を見捨てない	32
私、知ってるよ	32
目を見て挨拶してくれる	33
卒業生も頑張るから	33
優しさは借り物でない	34
お世話になるので	34
優先して集めている	35
先生ありがとうございます。これどうぞ	35

言われなくても体が動くつてすごい	36
優しく、気持ちが一番	36
本当にいい生徒ばかりですね	37
販売実習が懐かしい	37
全国大会で学んだもうひとつのこと	38
汚してはいけない	39
優しさが受け継がれている	40
先生に教えてもらいたい	40
最後の授業	41
みんなで拾ってくれた	41
文化祭があるので来てください	42
本気で言ってくれた	42
園児をまとめて連れて行った	42
地域の人からのメール	43
民宿の方からのお手紙	44

※文末の（ ）は、その出来ごとの日付です

農学校の生徒の優しさに感謝

一学期の終業式の日、男子生徒が十五時の飯田方面の電車に乗ろうと、鼎駅の待合室に座っていた。隣にいたおばあさんが急に具合悪くなって体を丸めてしまった。それを見た彼は、すかさず「大丈夫ですか」とやさしい声。「近くの病院で診てもらったけど、どうも良くない」と青ざめているおばあさん。彼は「病院までおんぶしてあげるから行きましょう」と声を掛けたのですが、おばあさんは遠慮された。そこで、生徒は駅員に連絡してタクシーを呼んでもらいました。タクシーが着くまでの間、生徒はおばあさんの背中をやさしくさすって看護を続けました。しばらくすると電車が到着。おばあさんが「私はいいから電車に乗って帰って」と乗車を促したのですが、彼は看護を続けたのでした。

てうれしかった」とのお礼でした。

折しもロンドンオリンピックの真つ最中、まさに、大きな金メダルを彼に上げたい気持ちになりました。出来れば、優しい生徒の顔が見たいから、是非校長室に来てほしいと呼び掛けたのですが、残念ながら来てくれませんでした。

確か、二年後の二月、ふとドアを開けた時に、廊下を歩いている生徒と目が合ったのでした。「こんにちは」と挨拶をしてくれる元気な生徒。私は立ち止まってしまい、「元気だな」との声に明るく答える生徒。お互いに目をあわせてのわずかな空白の時間、生徒から「先生覚えていますか。駅でおばあさんの世話をした話」私はとっさに返事ができませんでしたが、彼の顔を見ると、次第に思い出してきたのでした。「もしかしたら、優しい生徒は？」生徒は「あの時はとつても恥ずかしくなかった。実は僕です」と明るく答えてくれました

この光景を近くで一部始終見ていた婦人がいました。そのひとも、おばあさんを介護しようと思ったのですが、傍観するだけでした。電車が来てしまったので、具合の悪いおばあさんを横目に、後ろ髪をひかれる思いで乗車したのでした。婦人は電車の中で、おばあさんの容体、優しくしていた高校生の姿が頭から離れず、何もしなかった自分を悔いたのです。翌日、その婦人より、おばあさんに声をかけられなかったことが気になって、せめて学校にこのことを知らせようということ電話がかかってきました。彼の世話をしている様子を詳しく話され、「今、高校生についていろいろ話題になつていますが、下農生の姿に感動した」「素晴らしい生徒に感激した」とのことでした。この電話の直後、おばあさんからも電話がかかってきました。「農学校の生徒の優しさに感謝、命拾いをした」「タクシーが来て、私を支えてくれ

た。そして、「大したことはありません」将来は福祉関係の仕事に就きたい」との力強い言葉。二年後に再び嬉しい気持ちがいよみがえってきました。

(平成二十四年七月)

たった一口でも

うどんをつくる実習を終えたとき、時には少量ながらも作ったうどんが余ることもあります。その場面にいる生徒は、たった一口であっても、全員が食べるように盛り付けてくれるのです。先生が指示することなく、自分一人で食べるのではなく、みんなで食べるといふやさしさ。その場にいた生徒が揃ったところで一斉に「いただきます」で食べるのです。生徒のやさしさと家庭教育の確かさを感じることがよくあります。

(平成二十八年一月)

農学校の生徒は癒し

四月半ばの朝、飯田市役所に勤務する男性からの電話。

毎朝、鼎駅から市役所に行く途中で、何人かの本校の男子生徒とすれちがうことがあり、そのたびに、気持ちのよい挨拶をしてもらい、すがすがしい気持ちになっている。男子生徒たちは、行き交う人たちにも挨拶をしていてすばらしいのとこのでした。

その翌日、私が登校する途中、八十歳ぐらいのご婦人より「昨日、重い荷物を持っていると、農学校の生徒さんが一緒に持つてくれ、とつてもうれしかった」というのです。そして、「時々下校途中の生徒に、こちらから声をかけると、こんな年寄りにもちゃんと話をしてくれる。私にとつては農学校の生徒は癒しです」と言われました。

(平成二十三年四月)

祖父のようなアスパラをつくりたい

ある女子生徒が農業大学校に進学するために、面接の練習をした時のことです。彼女に志望の動機を質問したところ、「祖父のアスパラがとっても立派で評判がいい。将来は祖父が作るようないいアスパラを作りたい。そのために、もっと野菜作りの知識と技術を学びたいので志望した」とのことでした。聞くところによると、彼女は、小さいころからおじいちゃんのアスパラづくりの手伝いをしており、小学生のころには農業をするために下農に行くことを決めていたとのことでした。そして、彼女は、土づくりの大切さとアスパラ栽培のテクニクを理路整然と話をしてくれたのです。彼女の自信に満ちた語り口に感激し、しばらく面接練習を忘れて聞き入ってしまいました。おじいちゃんがこの話を聞いて感激することは想像に難くありません。いずれ、彼女もまた、

孫が畑の仕事を手伝ってくれる

先日、大変親しくお付き合いをしている中学校の先生から「畑作業をしているおばあちゃんから、とつてもいい話を聞いた」と電話がありました。そのおばあちゃんは「孫が下農に行くようになってから、畑の仕事をよく手伝ってくれる。とつても嬉しい。孫と仕事をする時が幸せ。下農に感謝している」との内容でした。

本校での農業の学びが、一緒におばあちゃんと畑仕事をするきっかけになっており、なんと微笑ましい姿でしょうか。その生徒は、畑仕事をしながらおばあちゃんからいろいろな話を聞いて、自分の家を考え、将来を考え、地域を考えることとします。

(平成二十五年)

しっかりと家を支え、地域を支えることでしょうか。

(平成二十四年十一月)

下農の生徒であれば採用したい

工場実習でお世話になっているS会社の社長さんの話。

「実習に来る生徒は大変意欲的で前向きに取り組んでいる。また、就職した卒業生もとつても明るくて一生懸命に取り組んでいてわが社の貴重な戦力。私は『下農の生徒であれば採用したい』と社員に伝えてある」というのです。嬉しかったです。これって「下農ブランド」っていいのでは…。実習態度、入社した先輩たちが一生懸命に頑張っているからこそ、この評価を得たものと思います。こういうように言ってくれる会社がたくさん増えることを願っています。

(平成二十六年十一月)

お姉ちゃんのように優しい人になってね

梅雨時の午後四時ごろ、下校途中の鼎小学校二年生三人が、本校の女子生徒二人と会いました。ちょうど、小雨が降ってきて、小学生のうちの一人が自分の傘を開き、両側に二人を入れて寄り添いながら、よちよち歩きでこちらにやってきました。それを見ていた本校の女子生徒は、自分たちがさしていた傘をこの小学生二人に渡してやったのです。小学生は大変喜んで家に帰りました。

しばらくして、雨足が強くなり、女子生徒は、途中の軒先で雨宿りをしながら家路を急ぎました。翌日、小学生の母親が生徒の傘をもって来校され、丁寧な御礼がありました。その時お母さんからこんな話がありました。

「雨が降ってきたので、心配で外に出てみると、子供が傘をさして帰ってくるのでびっくり。子供に聞くと緑色の服を着たお姉ちゃんが傘を貸して

くれた。振り返るとお姉ちゃんたちはぬれて帰っていった」との話。緑色の服ですぐ下農と分かり、子供に「お姉ちゃんのような優しい人になってね」と話をしたとのことです。

その後、この二人の生徒に尋ねると、「小学生がとつてもかわいくて貸してやりました。正直、その後雨は降らないだろうと思っていたけど、降ってきてびしょ濡れになってしまった」とのこと。傘を貸してやることは、なかなかできることではないと思いました。生徒の優しさに頭が下がりました。

(平成二十六年六月)



のり巻きやおせち料理を作ってくれた

以前PTA会長をされたM氏が、会議を終えると、いつもと違って急いで帰ろうとしているのです。その理由を聞くと「今日、娘がのり巻きをつくるので、早く帰ってきてほしいと言っているから」と笑顔。彼女は、高校一年の時にのり巻きの作り方を学んだから、毎年節分の時期になるとつくってくれるとのことでした。

その後、久しぶりにM氏とお話をする機会があり、またイイ話を伺いました。

「娘は、去年、今年とおせち料理作ってくれた。煮物やかまぼこの飾り切りなど、毎年手の込んだ重箱のおせち料理を作ってくれる。お母さんも娘と一緒に作るのが楽しみだと思っ」とのこと。正月に親戚が集まって、二十人ほどで彩り豊かな重箱を囲んで新年を祝ったとのことでした。アグリサービスク三年の時におせち料理を学んだこと

が卒業しても生きていくことに嬉しくなりました。心を込めた一品が、これからも続くことでしょう。そして、M氏より「娘がアグリサービスクを卒業してよかった」と言ってくれ、これまた感激しました。

(平成二十八年一月)

僕がつくるんです

下農に着任早々のPTA総会の日、正門で両手にトマトのポット苗をもって、親の車を待っている男子生徒三人がいました。「苗、どうするの?」と聞くと、「家に持って行きつくります」とのこと。「家ではお父さんがつくるけど、畑の隅で僕がつくるんです」と答えてくれました。自分だけで野菜をつくる生徒を知って、農業高校に来たなど言う感じがしたことを、六年たった今も頭に残っています。

(平成二十二年五月)

お父さんも頑張るから頑張れ

以前、本校PTA会長をされたF氏の忘れられないお話です。

F氏は、本校の卒業生でラグビーに青春を燃やした人です。下農は代々卒業生がPTA会長になっているのです。その流れを踏襲して、F氏にも、親しい先生からクラス役員になるよう要請されたのです。今まで小中学校を通じて、PTAには無縁ですべて奥さん任せということもあって、かたくなに拒否をしました。先生からの再三再四の要請に、母校と言うことで拒否できず、一年限りという条件でやむなくクラス役員受けたのでした。入学式で久しぶりの母校、校舎に入るととても懐かく高校時代にタイムスリップしたような感じであったとのこと。式終了後のクラス役員が集まったの一学年役員の選出の会議で、知らず知らずのうちに学年委員長の役になってしまったのです。

この役になったということは、二年後に会長の大役が回ってくることを意味しており「こんなはずではない」と、ただ暗い気持ちになって子供と一緒に家に帰ったのでした。

家でも思わず愚痴とため息が出てしまったのです。それを聞いた子供から一言。

「お父さんは、私が下農に入学しなかったら何も悩まないのに。私は下農に行かなければよかったんだ」と悲しい表情で言ったのです。その言葉にショック。しばらく沈黙の時間。そして、今日は入学式と言う晴れやかな希望の日というのに、子供にこのような気持ちにさせていいのかとF氏は自問自答したのです。そして、お父さんは「せっかくの入学式なのに、愚痴ばかり言って悪かった。お父さんも頑張るからお前も高校で頑張れ。お父さんはもう愚痴は言わない」と言い、子供に詫言たということです。

その後、F氏は予定通り、PTA会長になり全

校生徒の前で堂々と挨拶をされました。その都度、子供から、挨拶等について感想があり、親子の絆が中学以上に深まり、会長をしてよかったと笑顔で話をしてくれました。

(平成二十六年二月)

お母さんがいるみたい

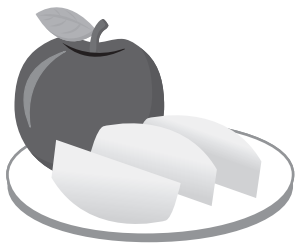
農場でとれたリンゴが手元にありました。私が生徒に食べていいよと勧めると、その生徒は皮を剥いて切り分け、テーブルに置き、そこにいた皆に勧め、自分は先に皮を片付けました。雑巾で水気まできゅつと片づけてから、やっとリンゴを食べ始めました。『お母さん』がいるみたいでした。すごく感激しました。

当たり前のことをしているだけなのですが、その生徒だけではなく、下農生たちは掃除をした後

も、委員会の仕事をした後も、一連の作業の後に「やりっ放し」の部分がないのです。「今どきの子どもだから」とあきらめていた所作がきちんと身につけているのです。

他に生徒たちは、コミュニケーション能力が高いと思います。遠くに姿を見つけた時から大きな声で「先生！・・・！」と、朝の挨拶をはじめとして、一日を通してあらゆる場面で人とかかわり方が上手です。私を含め周りの人々を自然と笑顔にさせてくれます。

(平成二十七年十月)



お風呂に入れてゆっくり休んでください

大学受験の補習でのことです。国立大学を受験するある生徒を、毎日夜遅くまで徹底的に指導しておりました。

ちょうど十一月頃のことですが、補習を終えて帰る時に、「先生いつも本当にありがとうございます。これは、家で採れた袖です。お風呂に入れてゆっくり休んで下さい」と言われました。

今まで、こんな風に声をかけてもらったことはなかったので本当に感動しました。当然、こんなに素晴らしい生徒ですので、公立大学に合格しました。下農には、真面目で勤勉で思いやりに溢れた本当に素晴らしい生徒がたくさんいます。

(平成二十七年十一月)

めとなじと絶対に言いつはづはなつ

私は、三者懇談会中の放課後、資格試験合格目指して、生徒を厳しく指導しておりました。「明日は、予定には無かったが六時迄やるぞ」と言ったところ、いつもより早く帰れる日課ということもあって、私のわからないところで、文句が出たようです。

それを聞いていた生徒の一人が、その後、「生徒のために一生懸命努力してくれている先生が凄くかわいそうだった。私は、あんな事絶対言つてはいけないと思う」と言ってくれました。

今まで歩んできた学校で、生徒が私をかばってくれた経験はあまりありません。このことに凄く新鮮に感じ、下農生の思いやりに感動した一瞬でした。

(平成二十七年七月)

資格が活かされた

数年前の保護者よりイイ話を聞きました。

私の子どもは農業機械科を卒業しました。危険物取扱者・フォークリフト・クレーンなど在学习中に取れる免許はほぼ取得しました。三年生の夏休み、数日手伝ったアルバイト先で、子どもが取得免許の話をしたのでしよう。その会社が本人のためにわざわざ求人票を下農に出してくれ採用となりました。就職の大変厳しいころでしたので、大手企業に就職できたことは親として嬉しく、本人の頑張りと学校での指導に感謝しているところです。

お客さんが来るといろだもんね

玄関を掃除している生徒。ホウキを持って、隅々までゴミを掃いているのです。「ここはお客さんが来るところだもんね。」と言って、自主的に水をまいて、もくもくと掃除をしているのです。

短い言葉でしたが、私にはとっても印象的な言葉でした。

(平成二十六年五月)



もう一度生まれ変われるものなら行きたい

旦那さんが「数学教室」をやっている七十代(？)の奥さんからの手紙。

この教室で本校の生徒のHさんFさんMさんらが勉強していることもあってお手紙をいただきました。達筆で便せん十枚のお手紙。その一部をそのまま紹介しますと

「先日、Hさんのお母さんにお会いしましたら、進学先が決まってとても喜んでいらっしゃいました。Hさんにとって、高校選択が下農でピタシカンカン、とても充実して学校に行かれたことをお母さんはとてもよかったと強く言っておられました」(Hさんは平成二十六年卒業)

「Fさんからのお話を聞いていると、あまりにも学校生活が楽しそうで、私もやり直せるものなら、もう一度生まれ変わるものなら、アグリに行きたいな」ととんでもないことを思っています。

ライトで照らすようにした生徒

その日は農場のりんごをたくさん買って、正面玄関のドアを開けるときも手荷物で両手がふさがっていました。

帰宅時辺りは暗く、車まで行っていざ車のキーを探り出そうと、手荷物のかばんや購入したりんごの入った袋をアスファルトの上に置いて、バッグの中をゴソゴソとやっていると、遠くにいた男子生徒が「せんせーい、どうしたの？」と駐輪場の辺りから自転車に乗って近づいて来ました。

彼は、自転車のライトでバッグの中をゴソゴソ探っている私のところを照らしてくれようと近づいて来てくれたようでした。

何かあったのか？と近づいて来てくれて、ライトで照らそうとしてくれた生徒。

程なくしてバッグの中からは車のキーも見つかりました。「ありがとう。」とことばを交わして遠

今頃私もいい年になって目覚めて、味噌をつくったり、おせち料理を試してみたりいろいろやってみますが、Fさんに負けそう。社会人に門戸が開かれたら私も下農に行きたい。友人が何年前にそういうのあったような気がするとか言って、二人して今度あったら行こうネとか言っています。食の大切さは、いつの時代もとても大切なことなのに、意外と皆危ない生活をしているように思えてなりません。」

「Mさんから学校のお話をお聞きしていると、下農の勉強って人間の生きている根幹にしっかり根付いているものだと思うのです。だから楽しい。」

とつても心温まる手紙で、ときどき出して読んでいます。下農の学びは、間違はなく私たちが生きていくために必要な知識・技術なのです。

(平成二十七年二月)

ざかっていく生徒を見送ったけれど、なかなか出来る事ではないなあと感じさせられた出来事でした。

(平成二十七年十一月)

汗をかいて一生懸命取り組んでいる

夏休み明けにセロリーづくりが始まるために、八月初めの暑い日、ハウスの中でマルチを張る実習をおこないました。ハウスというところでもないほどの暑い中で、生徒はたくさん汗をかき一生懸命取り組んでいました。とつても素晴らしく、頑張っている下農生がいることを知って欲しいと担当の先生は言っていました。

(平成二十七年八月)

下農で学びたい

四月のおわりに、タイ国の農業高校の先生とその生徒が来校して、一年生の地理の授業で「タイの文化や生活、自然について」の話をしてくれました。他に、ナシの花付け実習やインターアクトクラブの生徒と一緒に山作業を行いました。

帰国の際、このタイの高校生に日本の感想を聞いたところ、こんな答えが返ってきました。

「①日本人はとっても優しい。下農の生徒は親切でとてもうれしかった。楽しかった。②日本の農業技術はすばらしい。果樹の栽培で人工授粉をすることにびっくり。③机がキレイで、掲示物があった、勉強しやすいので下農で学びたい。放課後好きなクラブに入って活動することはとてもいい」というのです。改めて、私たちは恵まれた環境のもとで勉強していることを感じ、タイの生徒が下農で学びたいと言ったことはとっても嬉しいこと

ですね。時々この先生より「また日本に行つて、下伊那農業高校生と交流したい」とのメールが届きます。
(平成二十四年四月)

生徒のために本当にご苦労様です

夏休み中に資格取得の指導をしていたときのことで。講義を一日中指導していたため、班活動の指導ができず、班員に「申し訳ない」と話したところ、班の生徒達が「生徒のために、本当にご苦労様です。先生、大変ですね」と言ってくれました。もしかすると、班員は私が来なくてラッキーと思つたのかもしれないが、本当に、凄い生徒達だな」と感動しました。その様な素晴らしい生徒達をなかなか勝たせてあげられず、苦しい限りです。力不足を痛感するとともに、改めて自分自身が努力せねばと思っています。
(平成二十七年八月)

下農で学んでみかけた

アグリサービス科を卒業した女子がこんな話をしてくれました。彼女は、地元の福祉施設に就職し持ち前の優しさと明るさで、お年寄りの介護をしています。様々なお年寄りがいる中で、その対応に迷いながら懸命に頑張っています。

ある日、伏し目がちなおじいさんが、かつて、トラクターに乗って農業をしたことを彼女に話してくれたのですが、彼女は機械の知識が不十分ということもあって、どうも話が盛り上がりません。おじいさんの気持ちに寄り添いながら、何とかおじいさんを明るくしたいという気持ちから、家に帰って、在学中に使った農業機械の教科書を開いてにわか勉強をしたのです。トラクターの専門知識を三つ覚えて、翌日、機械の話をするとおじいさんの表情は明るくなって、いろいろな話をしてくれるようになりました。

それをきっかけにして、おじいさんは、彼女を見かけると自ら話しかけ、大変明るくなったとのことでした。彼女はこの経験から「下農で学んだ農業のことが福祉の現場でも役に立つ。下農で学んでよかった」と明るく話してくれました。
彼女が今の仕事に懸命に取り組んでいる姿に感動し、下農の学びが福祉の現場でも役に立っていることにとっても嬉しく感じました。
(平成二十四年九月)

先生！自動ドア

いつも、重い荷物を持つていると、誰とはなしに、荷物を持つてくれるのです。そして、先回りをして、ドアを開けて、「先生！自動ドア」と言つて、開けてくれることもあって、ちよつとした行動、心配りに優しさがあって胸にしみました。

(平成二十七年)

下農はいつ子がたくさんいる学校だね

平成二十六年年度の稲丘祭にご来場いただいた六十歳過ぎのご夫婦の話です。

知り合いのお孫さんが下農生だということ、稲丘祭を見に来られました。農産物店で売り子をしているその生徒と話をし、下農の農産物を買っていきましました。その年は有志の生徒で農産物を運ぶお手伝いをしていたので、荷物を車まで運んでもらったそうです。下農の農産物を買う機会はありませんので、大きな白菜などたくさん買って、高齢の方には運ぶのが大変な量だったそうです。なので、有志の生徒に荷物を運んでもらって非常に助かったと話していました。

また、校内を回っているときに、黄緑色の腕章をつけた女生徒が丁寧に案内してくれたことも非常に喜んでいました。案内している間に様々な話をしてくれて、楽しく回る事ができたそうです。

貴校の生徒は誰です

アグリ研究班がシカ肉のオリジナル料理を、東京の「銀座NAGANO」で提供したことを、NHKで大きく取り上げられました。このニュースを知った東京渋谷に住む女性から「食文化の大切さが叫ばれている中、農業と食を学んでいる貴校の生徒は宝です」とのハガキをいただきました。面識がなく、都会のご真ん中に住んでいる女性からの激励に胸が熱くなりました。今後も、生徒らは若い感覚で、シカ肉の活用について継続して取り組んでくれるものと思います。

(平成二十六年八月)

行動が自然

四月初めの飯田市役所の方とお話をする機会が

す。その生徒は、三年生で役員をしていると、大学の受験勉強を頑張っていて、絶対に受かって大学に行くという話をしていたそうです。その生徒の明るさや将来の夢を語る姿も好印象で、「下農はいい子がたくさんいる学校だね」とおっしゃっていました。

(平成二十六年十一月)

届けてくれた

ある主婦からの電話。

「下農の生徒さんが、私の携帯電話を拾ってくれ、店の人に届けてくれた。店の人からは、ただ下農の生徒さんということでは名乗らなかったの学校に電話しました。ありがとございました。とても嬉しかった」との電話でした。名乗らないなんてカッコイイですね。

(平成二十七年九月)

ありました。開口一番、「下農の生徒はいい子がいるね!」との言葉にとてもうれしくなりました。

三月の終わり、自動車を運転中に見た光景です。二人の女子生徒が下校途中、鼎駅の横の踏切を渡ろうとした時、春一番だったのでしょか。ちょうど強い風が吹いてきて、白いレジ袋が舞い、本人の近くに落ちたのです。その生徒は何もなかったかのように、その袋を拾って自分のバッグに入れたのです。そこに又強い風が吹き、同じように白い袋が舞ってきたので、もう一人の生徒が拾って歩いて行ったのです。この女子生徒の行動が極めて自然に行われ感激したとのことでした。

この話は、ただゴミを拾ったというだけのこともありません。ゴミ箱があってもゴミを入れない人もいるのに、それを拾って何もなかったかのように歩いていく下農生はその姿に感動しました。うれしい電話でした。

(平成二十五年三月)

保母さんにもうっている生徒

文化祭の来場者はとっても多い。その目当ては、生徒のつくった野菜や花、味噌などの加工品であり、農産物の販売所は混雑していて別世界です。ある卒業生と久しぶりに会ったところこんな一言。「下農はいつもにぎやかで、特におじいちゃん、おばあちゃんが多いね。生徒が家族と一緒に歩いている場面を多く見かける。今、人形劇を見て、とっても良かった。特によかったのは、劇が終わった後、生徒が劇を見ていた子供たちに優しく声をかけている姿を見かけた。温かさを感じ、保母さんにむいている生徒が多いね」と言うのです。

この話がある先生に伝えると、「さつき、おばあちゃんが階段を降りようとしていると、手を差し出してサポートしている男子生徒見ましたよ」とのことでした。イイ話が続きました。

(平成二十五年十一月)

周りの人を大切にできるやさしい生徒

山岳班の活動で八ヶ岳の編笠山と西岳に登った時の話です。編笠山は八ヶ岳の一番南にある山です。登山口から樹林帯を歩いて行くと、頂上まであとわずかのところで樹林帯を抜けて岩場になります。そこまで来ると一気に視界が開けて、富士山や南アルプス、甲府盆地などを見渡すことができます。きれいな景色を堪能して元気が出ると、頂上まであと少しということもあり、生徒は岩場を駆け上がるように登って行きました。私は写真撮っていて出遅れたので、気づいた時には生徒が小さく見えるほど遠くにいました。頂上で追いつくつもりで、生徒を追いかけずにゆっくり岩場を登り始めると、一年生の一人の生徒が岩場の途中で立ち止まってこちらを見ていました。生徒に近づいて行くと「大丈夫ですか？」と声をかけてきました。私のことを待っていてくれたようです。

家に年寄りがいるかもしれねえな

時又駅でお年寄りに優しく接している緑の制服を着た高校生がいたとの電話をいただいたことを思い出しました。

私が下農に赴任する前の春休みに、飯田線に乗っていたところ、前の座席に座っていた男子高校生が、伊那八幡駅で乗車したお二人のお年寄りに席を譲っている光景を目にしました。

そのお年寄りの会話が飛び込んできました。「今のみどりの服を着た若い人は高校生かな?」「あれは下農の生徒だに。家に年寄りがいるかもしれねえな」との会話。寝たふりをして聞いていました。こんないい生徒がいる下農に早くいきたいという気持ちになったのです。

(平成二十一年三月)

そこから私のペースに合わせて登ってくれたり、途中にあった「頑張つて」という看板を指さして励ましてくれたりしました。そうして楽しく話をしながら生徒と一緒に編笠山に登頂しました。周りの人を大切にできる優しい生徒がいて嬉しく思います。

(平成二十七年六月)

必ず手伝ってくれる

「本校の鶏小屋をゲージ飼いから、平飼いに改装したい」と、ボソッとつぶやいた私の言葉に集まった生徒はなんと十二名。作業は十一月から、寒期中ホコリだらけの仕事を手伝ってくれました。土日はもちろん、冬休みも必ず誰かが来てくれました。ゲージからでて自由になった二ワトリを見ると、手伝ってくれた生徒の姿が思い出されます。

(平成二十六年十二月)

自信がついた生徒

「課題研究」の授業では、生徒はテーマをもって取り組んでいます。

味噌に振動を与えて味を向上させる研究をしていた生徒のことです。味噌の味を確認するため、校外でのお祭りに出かけ多くの人たちに意見を聞いてくるように指示しました。

これに一人の生徒は乗り気だったのですが、もう一人の生徒は、やる気が感じられませんでした。やる気の失せた生徒、当日、味を確認するために、しぶしぶ味噌汁を試飲してもらったところ、振動で味が良くなったことを、多くの人たちが実感してくれ、生徒は驚きとともに研究のすばらしさを改めて理解する事ができたようです。その経験から、凄く自信がついたようで全ての事に自信を持って、意欲的に取り組むことができるようになりました。

(平成二十六年十一月)

商売は商い(あきない)

江戸町のK店に行った際、こんな話をいただきました。

「男子生徒がナシを売りに来てくれる。気持ちよく挨拶をしてくれて、いい子たちでとつてもいい」そして、おじいさんが「下農の生徒はいいのだが、売ってお金をもらうと、すぐ帰ってしまうけど、そうではなくて、少しこの年寄りと話をしてくれれば百点満点だ、ちよつと辛口かな」というのです。そして、後ろにいた奥さんが、「今のことはあまり気にしないでね」と私をかばってくれました。

そして、奥さんがこんな話をするのです。「先日、ナシを生徒が売りに来た時、家に来たお客さんもナシを買った。そのお客さんは、歩くのが不自由ということもあって、この道を下ったところの私の家に置いてもらいたいと言って、生徒にお

ご苦労さん

春の交通安全旬間の日、朝、下農への通学路の横断歩道に小学生の保護者が小旗をもって立っていました。知人と言うこともあって、声を掛けさせていただきました。保護者がこういうのです。

「下農の生徒は、よくおはようございますと言って通っていくのでとつてもいいですよ」と言ってくれました。言わない生徒もいるでしょうと尋ねると、「それはほんのわずかですよ」とのこと。中には「ご苦労さん」と言ってくれる生徒もいましたと笑顔で話してくれました。「ご苦労さん」なんて、上から目線ではないのと思ってしまうのですが、なにも言わない生徒よりはマシかなと思って学校に来ました。

(平成二十七年四月)

金を渡したということです。生徒は言われたとおり、その家に持っていったが、鍵がかかっていたのもし盗まれたらいけないと思い、持ち帰って手渡そうとすると、お客さんは、玄関のところに置けばいいのにと突っぱねた言い方をした。生徒はイヤミな顔一つせず、お客さんの言われたとおり、その家にもう一度持って行った。持っていく時の生徒の顔がとてもさわやかで、素晴らしい生徒」と絶賛してくれました。

おじいさんは、「その生徒は、世の中には色々な人がいるということを学び、とつてもいい勉強をしたのではないか。お金では買えない勉強をしている」と言われました。商売は商い(あきない)・飽きないであると言われるごく納得しました。いつも、K店は生徒が販売に来られることを待っていてくれます。

(平成二十五年十月)

心から感謝しようとする人はほんとう

サッカー大会のリーグ戦の日でした。サッカー班のある生徒が、学校出発時間の七時三十分より少し前に学校に着いて荷物をバスまで運び込んでいた時に、彼からそっと財布を渡されました。

彼は少し困った表情で「財布を拾いました。先生どうしましょう」拾った場所は通学路で、学校よりも少し離れた場所とのこと。その付近には交番もなく、届ける場所もなかったことから学校まで持ってきてしまったようです。どうしたらよいか困っているの、「近くの名古熊交番に届けよう。ただし、交番で受理に時間がかかるから、帰ってきてから正規の届けを出すように」との話をしました。

その生徒は、謝礼をもらうために、今ここに持ってきたのではないし、この財布を落とした人がわかればすぐに渡したいと言い、自分の名前を出す

ことに抵抗を示しました。

財布の中には、現金とレシート類が入っているだけで誰のものかわからない状態でした。そこで、大会に向かう途中、交番によって、事情を伝え、会場に直行しました。

学校に戻ってきてから、私が交番に行くと、偶然にも財布の持ち主が紛失届けを出しに来ているところでした。私から、その落とし主にこの経緯を説明して、生徒の気持ちを伝えたところ、「いまだきの高校生はという気持ちで見えていたけれども、考えを改めなくてはいけませんね。是非、心から感謝していると伝えとほしい」とお褒めの言葉をいただきました。私は彼の正直な気持ちに接し、温かな気持ちになりました。

(平成二十七年)

親子二代で使う楽器

サククスという楽器があるのですが、現在は多くが金色の楽器が多いのですが、昨年度の班長の生徒が銀色のアルトサククスを使用しており、珍しいなと思って、(最近のアルトサククスは銀色なものはほとんどないので目を引いたのです)話を聞くと、なんと母親が青春時代に使用していた楽器とのこと。前任校でも吹奏楽の顧問でしたが、そういったことは初めてだったので、感銘を受けました。自分の使っていた楽器を子供が使ってくれるなんて幸せなことだとも思いました。三年間、大切にそしてハードに毎日の練習に使い、その楽器で演奏して十年ぶりの東海大会に出場しました。楽器の盗難があつて急遽楽器が必要になりました。その時スเปア楽器として使わせていただいたのも保護者の楽器でした。吹奏楽の非常時に本当にありがたいことでした。他にも、親のホルンを

現在使用している生徒もいます。

最近ファストファッションなど安くて使い捨てのものが多く中、ちよつとほっこりするお話でした。

下農が有名になるようになれば

「先生、ときわ劇場でORANGE (オレンジ)を見ました。最後の字幕のところ、下農の名前が出ていてとっても嬉しかった、全国上映だから、全国に下農の名前が知れ渡って、下農が有名になるといいな」と言ってくれました。こんな短い言葉でしたが、これを言った二年生の生徒は、今学んでいる下農に愛着を持っている感じがしました。「今度はみんなの活躍で有名になるといいね」と言っていました。

(平成二十七年十二月)

先生にも優しい思いやりのある班長

平成二十六年年度の山岳班の夏山合宿での話です。夏休みを利用して、日本第二位の高さを誇る北岳に二泊三日で登りました。山岳班の副顧問になつてから四か月目のことで、昔から山に登っていたとはいえ、まだまだ初めて経験することが多い頃でした。小屋泊まりしかしたことのない私にとつては初めて自分でテントを背負つて登る山行だったので、この山行のためにテントを買い、テントが入るような大きいザックも買つて臨みました。生徒もまだまだ体力的に不安なところがあったので、一日目はコースタイム三時間の白根御池小屋のテント場までという余裕を持った簡単な計画でした。しかし、スタートすると背負いなれていない重いザックがずしりとして、いつものように足が上がりませんでした。主顧問の先生が先頭を歩き、その後ろを生徒たちと一緒に歩いてい

ましたが、だんだんと隊列の後ろのほうに下がってきて、途中からついていけなくなり、隊列から離れるようになってしまいました。本当につらくなって、下を向いて一步一步必死に足を出しながら、ふと前を見ると、最後尾にいた当時一年生の副班長（現在の班長です）が私のほうをちらちらと見ていました。声をかけることはないのですが、ちよつとしたはしごを上ったり、階段を登ったりするたびにちらちらと後ろの私の様子を気にかけていました。それが嬉しくて、なんとかその生徒の背中を追いかけて、登りきる事ができました。先生にも優しい思いやりのある班長です。

（平成二十六年八月）

先生、誕生日おめでとう！

今年の私の誕生日のできごとです。3Cの授業に行つたとき、教室の扉を開けて中に入つていくと数人の女生徒が「先生、誕生日おめでとう！」と声をかけてくれました。自分では誕生日を忘れていたので、とても驚きました。その後もほかの生徒から「おめでとう！」「何歳になったの？」「なご声をかけてもらい、とても嬉しかったのを覚えています。そのときにある女生徒は「おたんじょうびおめでとう！」というメッセージと一緒に私の似顔絵を描いたルーブリーフをくれました。簡単なプレゼントだけでも私にはとても嬉しいプレゼントでした。研究室の私の机の引き出しの中には今もそのプレゼントがあります。

（平成二十七年八月）

気づいた瞬間に動く

放課後、第一体育館に用事があり、体育館に行つた時、体育館前のすこの周辺を2Bの生徒が一人うろうろしていました。近づいてみると両手にちりとりと箒を持っていました。掃除の時間でもないのに、何をしているのかと思ひ尋ねてみると、「掃除しているんです。」と答えが返ってきたので、さらに「誰かに頼まれたの？」と尋ねると「班活に行く途中で通りかかったら、風でゴミがたくさん舞つていたので片づけようと思つて掃除しています。」と彼は答えました。その後もくもくと周りに散つているゴミを集めていました。気づいたところですぐに動ける、行動に移せるというのは大切なことだと改めて思い、生徒の姿に私も見習いたいと思いました。

（平成二十七年九月）

相手を思いやるその一言

それは暮れも押し迫ったころだったかと思いません。

誰もが年越しの買い物で気ぜわしい夕方、あたりはもうすっかりと暗くなっていて皆家路を急いでいました。

私も店をはしごをして、最後にドラッグストアで買い忘れた小さいお供え餅を見ようと店に立ち寄った帰りがけ、思いがけず出入口付近で本校の男子生徒と出くわしました。

「遅いじゃん。これから帰るところ？」と話しかけると、生徒は家に帰るところだけれど家中みんな出掛けてしまっていて、夕飯を自分で調達しようとして来たところだという。「でも、やっぱりドラッグストアよりもコンビニとかの方が夕飯になるものがあるなあ」と彼。「そりゃそうだね。」と返して、しばしたわいもない会話をした帰りがけ、「先

生、良いお年をお迎えください」と思いがけず改まったことばが彼から飛び出した。

もちろん私も「気をつけて帰ってね」「良いお年をね」と声を掛けて別れようと思っただけなのに。学校では、彼とそれほどたくさん話をしていて、訳ではないけれど、これほど改まった年の暮れの挨拶が聞かれるとは。それは何げないひと事だったけれども、一緒にいた私の母も「なんてよい子なの……」と思わずつぶやきました。それほど年の瀬を一瞬にして忘れさせる温かい彼の改まったそのひと言の挨拶だったのです。

学校の外でふと出くわした時、相手を思いやるそのひと言をフツと出してくれたことがとてもうれしくて、迎える年、三年生になる彼にたくさんのおしあわせが訪れるようにと心から願って家路に着きました。

(平成二十七年十二月)

登山者にも元気を与えよう

山岳班は休日の活動で県内の山に登山に行きまです。山では登山者同士挨拶するのが基本です。すれ違った登山者に「おはようございます。」「こんにちは。」「どちらまで行かれたのですか。」「お気をつけて。」など声をかけ合いながら、同じ登山者を気にかけて、心配し、安全な登山を願いながら山に登ります。しかし、最近の山ブームで若い登山者や山についてよく知らない登山者が増えて、挨拶をしない人も増えていそうです。

そんな時代の中、下農の山岳班の生徒はそのマナーを教えていなくても、すれ違った人に挨拶をされれば、きちんと挨拶を返しています。また、新入生は先輩が他の登山者に挨拶をしているのを見て同じように周りの登山者に挨拶をしながら登っています。指導をしなくても自ら挨拶が自然とできるといえるのは下農生の良さだと感じます。

平成二十七年度の夏山合宿で聖岳、上河内岳、茶臼岳、易老岳に登ったときのことです。易老岳から登山口までの下り道は急な登山道でした。途中ですれ違ったおじさんは急こう配を登ってきて疲れた様子でした。生徒が「こんにちはー！」と元気よく挨拶をしながら通り過ぎていくと、そのおじさんは笑顔になって、「高校生かい？元気だなー。」と息を切らしながら話しかけてくれました。下農生は山で周りの登山者にも元気を与えているのだと感じました。生徒たちは「どこから来たの？」と聞かれれば、足を止めて答えようと思えます。知らない人に挨拶ができたり、話をするこ

とができたりするのは下農生の誇るべきところだと思えます。

(平成二十七年八月)

農業高校の先生になりたい

『先生、合格しました』との笑顔一杯、元気な声が入ってきました。難関国立大学に合格した女子生徒。受験に向けて面接練習をしたということもあって合格の報告にやってきました。

生徒にいろいろ聞きました。印象的だったのは「高校受験の時、どこの学校を受けようか考えました。普通科にしようか、農業高校にしようか工業高校にしようか、色々考えたけど、結局、中学校で花壇づくりや畑仕事をして、花に興味を持っていたから下農に決めた」との話。「実際に農業を学んでみて、花についていろいろ興味がわき、咲いている花を見ると、あの花の名前は何かなど疑問をもつようになった。先日も店先に並べられているシクラメンの花の中にしぼんでいるのを見て思わず花を抜いてきれいにしたかった。時々、家で花について質問されることがあり、それに答えた

時は優越感を感じます。将来は海外で働き、その後は農業高校の先生になりたい」と語ってくれました。うれしい話でした。

(平成二十七年十一月)

いつも、つくったものを届けているよ

食品化学科二年生女子の一言。

実習で和菓子やパン、漬物などを作るたびに、近くに居る自分のおばあちゃんに届けるとのこと。いつもおいしいよと言ってくれ、中には、もう少し味を濃くしてもいいのではとの注文もあって勉強になると素敵な笑顔で話してくれました。かわいいい孫から届けてもらうおばあちゃんは幸せだなーと思いました。

(平成二十八年一月)

美味しいものができんだね

○選択の授業で野菜を栽培している農業機械科三年生の一言。

時間内に終わらせることができなかったメロンの受粉作業。出来なかつた分を放課後の農場週番の生徒、野菜班の生徒が行っているのを見て生徒が言いました。

「授業だけじゃなくて、他の時間にいろんな人が自分たちの野菜を管理してくれているから、美味しいものができんだね。初めて知った。先生、ありがとう」と言ってくれました。気づいていてもなかなか言えない一言だと思いました。担当者としてすごく嬉しい言葉です。

○農業機械科三年生、選択科目「園芸」を選択しています。一年生の時に土に触れて以来、久しく農業の授業。授業でハウス栽培のネットメロンを育てることになり、毎回側枝を採ったり、紐に巻

きつたりなどの作業があり、多くの生徒は授業時間で終わらせることができません。残りは放課後でやるようにと指示しています。週に一回の授業では全部をすることはできません。そこで、やり終えられなかつた管理作業を、農週の生徒や野菜班の生徒が、放課後の農週の時間を使っておこなうこともあります。

あるとき、園芸を選択している生徒がたまたまそれを見て、「自分たちの知らないところで、ほかの人に管理作業してもらっていたことを初めて知った」と、その後数日にわたり、放課後の時間に自主的に管理作業に訪れました。圃場で実習が少ない農業機械科の生徒にとってなにか感じるころがあったのかなと思うと同時に、管理作業を自主的に来ることに感じしました。

(平成二十七年)

困った人を見捨てない

班活を見に行けなかった日のトレーニングの記録をチェックしていました。トレーニングには学校の外周を三周走るというメニューがあり、速い生徒で十二分、遅い生徒で二一分ぐらいの記録になります。しかし、その日の記録では四十分以上かかっている生徒が二人いました。なので、外周中に何をやっているんだと叱りに行くと「外周を走っていたら自転車のチェーンが外れて困っているおじさんがいたんです。チェーンを直すのが得意だから自転車直してあげてたら四十分もかかっちゃった」と笑いながら答えました。

この生徒は困った人を見捨てない優しさを持っているのだと知りました。

(平成二十七年八月)

目を見て挨拶してくれる

下農体育館で稲丘杯中学生剣道大会での審判長の一言。

『体育館を出ると、吹奏楽の生徒にあったけど、会う生徒みな、こちらの目を見て気持ち良い挨拶をしてくれる。気持ちが入っていて素晴らしい』と言われました。確かに、吹奏楽班の生徒は気持ち良い挨拶をしてくれます。こちらから、「二年連続、県代表で東海大会に出ているんですよ。今下農の生徒は大きな声で校歌を歌っている。それは、吹奏楽の生徒が大きな声で、全校をリードしているから」と。審判長は笑顔でうなずいていました。実は審判長は下農の卒業生なのです。

大会終了後、審判長が吹奏楽班の生徒に会うために音楽室に直行。残念ながら、各パートでの個人練習中で全員がそろっていなかったため、急遽顧問のいる部屋へ。

私、知ってるよ

演劇班が地区代表として県大会に出場した時のこと。

他校の先生方から下農の発表を楽しみにしているとお話をいただいたものの、班員は浮かぬ顔。それは他校の発表を観て、レベルの高さに自信を無くしているようでした。その夜のミーティング。一人ずつ今の自分の気持ちを発表していきました。ある班員から「私、先生が頑張っていること、知ってるよ。研究室の先生の机には、演劇の資料や連絡先が書かれた付箋がたくさんあって、その机の様子で私たちのために頑張ってくれていると感じた。先生ありがとう。」と涙。この生徒の温かい心のもった言葉に私も涙してしまいました。

(平成二十七年十一月)

審判長は顧問の先生と副班長に、このことをお話しされていました。二人とも恐縮しきりでした。挨拶って大事ですね。

(平成二十八年一月)

卒業生も頑張るから

共進会の会場で、最優秀賞を受賞した方に、アドバイスをいただきに声をかけたところ、下農の卒業生でした。母校の近況や、学校での飼育方法、餌をどのタイミングで与えるのか。困ったら誰に相談すればいいのか。親身になって聞いてくださいました。「高校生が学ぶ時、より良い環境となるように、私たち下農卒業生も頑張るからね」と。卒業生は、本当に学校を、地域を大切に思っているのだなと思いました。

(平成二十七年十一月)

優しきは借り物でない

ある会合でお年寄り御夫婦から嬉しいニュースをいただきました。それは、昨年下農での孫の芋ほり体験について来た娘さんのお話でした。

「芋ほりで、女子生徒がとっても優しく面倒をみてくれた。そのやさしさは借り物ではなく、全くの自然体であった。けがのないように注意を払って親にも笑顔で話しかけてくれた。私が高校生の時、あのようなやさしさが出来たのだろうか。下農生のやさしさに感激」との内容でした。そしてこのお年よりから「優しい生徒がいる下農に子供をやりたいね」とも言ってくださり嬉しくなりました。

翌年、また同じ会合に出たところ、同じお年寄りから嬉しい話を聞きました。それは、「生徒さんから売りに来たリングを買った。その時に生徒がリングの説明を丁寧にしてくれて勉強になった。

思わずたくさん買ってしまった」との話がありました。今学んでいるリングのことを地域の人たちにおしゃべりができるなんて素晴らしいと思います。

(平成二十七年十一月)

お世話になるの

班活動で他校と練習試合をした際「先生、そろそろ玄関にお迎えに行った方が良いですか」と班長が聞いてきました。その日の相手校の顧問は、以前下農に勤務されていた方だったので、「きつと案内しなくても、体育館の場所わかるし大丈夫だよ」と言うといえ、でも今日は練習を一緒にやって頂き、お世話になるので」と…生徒の言うとおりです。こちらの身が引き締まる思いでした。

(平成二十七年十月)

優先して集めよう

先日、八十歳になろうとする卒業生からの突然の電話。

それは「地元の新聞を読んでいるけど、この六月には下農の記事がたくさん載っていてうれしかった。茶摘み、英語弁論大会、福祉講座、人形劇フェスタの花準備、おいしいレストラン、魚料理など後輩たちががんばっている姿が紹介されていてとても嬉しい」週刊いっだの表紙にフラワーアレンジメント全国大会で活躍した生徒が大きく紹介されていてよかった「いろいろと興味のある記事を切り抜いているけど、下農の記事は優先して集めている」というものでした。

卒業して六十年以上も経つ卒業生が、母校に熱い思いを寄せていることにとっても嬉しい気持ちになりました。

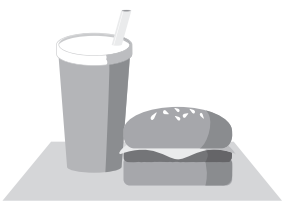
(平成二十六年七月)

先生ありがたみは、いっだい

大会に行ったときの事です。朝、生徒達を迎えに学校まで来たところ、当日乗車する生徒が、「先生ありがとうございます。これをどうぞ。」と言ってそつとパンとコーヒー、栄養ドリンクをくれました。

こんな経験は一度もなかったのです、凄く感動するとともに大変申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

(平成二十七年十月)



言われなくても体が動くってすごい

社会人チームとの練習試合の朝。前夜から積もった通路の雪をかくよう指示をしたのですが、班長が除雪機を見つけ、「あ、これ、ばあちゃん家と同じだ！」と言って、駐車場の除雪を始めました。私の心配をよそに、彼は得意げに機械を操り、手際よく作業を進めました。「どうせなら全部やりましょう！」というキャプテンの一言で、試合前にも関わらず全員で駐車場の雪かきを行いました。普段、何かと「めんどくせー」と言っている彼らも、いざとなると自然に体が動くというのはさすが下農生だなと感じました。「これだけ頑張ったら、先生たち褒めてくれるかなー」との声。「これが当たり前だと思えたら、もっと立派なんだけだなー」と彼らには言いましたが、少しだけ頑張った生徒がいることを紹介させていただきました。（翌日、除雪のために早く来た職員たち、きれいに

除雪されていて感激したこと。男子バスケット班の皆さんありがとうございました）

（平成二十八年一月）

優しく、気持ちが一つ

飯田養護学校との交流会は長く続いている行事の一つです。

「下農の生徒は交流会に向けて、ダンスなど一時間練習して交流に臨んでくれる」「一緒に作業するときも一緒に驚き、一体感となっている姿、優しく、気持ちが一つになっている姿に感動」との話。別れる時の涙、お互いに手を振って別れる姿にまたまた感動…。素晴らしい交流会です。

（平成二十七年九月）

本当はいい生徒ばかりですね

登下校の際には、必ずと言ってよいほどすれ違う人に挨拶をしていく礼儀正しい生徒の話です。

インターハイも終わり、彼は、助っ人としてラグビー班で活動していた頃、ラグビー班の練習が終わり、鼎駅へ向かって帰る途中のことでした。

いつものように、彼はすれ違う人に挨拶しながら歩いていました。途中、ある老人の方に同じように声をかけて通りすぎましたが、何か気になって戻り、その老人に声をかけたそうです。その老人は認知症を患っており徘徊をしていたのです。その老人といろいろ話をしながら、何とか自宅に届け家族に引き渡しました。

翌日、その家族からお礼の電話が学校にありました。「何とお礼を言っているかわからない。気がついたら家から出ていて探そうとしていたところにちょうど連れてきてもらった。下農の生徒は皆

優しい。本当はいい生徒ばかりですね。……

彼は、やや落ち着きにかけるのですが、本当は心が優しく気のつく生徒なのです。挨拶のできる生徒は違いますね。

（平成二十六年）

販売実習が懐かしい

シクラメンの販売実習を終えた生徒からこんな話がありました。

「シクラメンを販売していたら、私も下農の卒業生と言って声をかけてくれた。販売実習が懐かしいと言って、三鉢買ってくれてびっくり。帰りに頑張つてと言われて、とっても嬉しかった」とのことでした。卒業生は四十歳位の女性のようなたとのこと。

（平成二十七年十一月）

全国大会で学んだものについて

下伊那農業高校剣道班は、平成六年富山県庄川町で開催されたインターハイに男子団体初出場を果たしました。それまで、男女個人でのインターハイ出場は度々あったものの、強豪松商学園を下し初の団体での出場とういことで、選手と私は意気揚々と開催地入り。開会式の入場行進では、「男子団体・長野県代表・下伊那農業高等学校」と会場に響くアナウンスに、大変感動したことを覚えていきます。

この大会では、改めて全国レベルの剣道とはいかがなるものかを肌で学び、その後の平成八年女子団体インターハイ出場へとつなげることができました。しかし、忘れられない、学びとなったことが、もう一つあります。それは、大会後の最終宿泊地でのことです。その夜、入浴もすませ、部屋で寛ぐ私を宿のご主人が訪ねてこられました。

そして、何の用かと訝る私にこんな話をしてくれました。

私は、最初の玄関先での挨拶から始まり、生徒さんの様子をずっと拝見させていただいていました。従業員への挨拶だけでなく一般のお客様にも気持ちの良い挨拶をする姿、そして、配膳から片付けまですべてやっていただきたく姿に驚きました。一般の利用客もある中、トイレの履き物はその都度きちんと揃えてあり、お風呂が使われた後は風呂桶や椅子がきれいに整頓されていました。宿で騒がしくする高校生は多く見えてきましたが、こんな高校生を見るのは初めてです。そこで、こんな素晴らしい皆さんに私からお返しをしたいと思います。毎朝沖合に仕掛けた定置網から揚がった魚を料理にお出ししています。よければ明日の朝、生徒さんに定置網漁を見ていただき、揚がった魚を船上で刺身にして食べていただきたいと思います。

汚っちはくせえ

雨降りの時の渡りローカは、汚れやすく、吹奏楽班が自主的に掃除をしていた時、そこを通りかかった生徒たちが、自分のスリッパの汚れに気が付いて、その場でスリッパを脱いで歩いていく姿を見て、汚してはいけないという気持ちに感動しました。素足が汚れるのに……。下農ではよく見かける光景です。

(平成二十七年六月)

この申し出に断る理由もなく、お礼とともにお願いすることにしました。「船は朝5時に出ますので、四時半頃部屋に電話をします。」とのこと。咄嗟に「はい、お願いします。」と応えた私の顔は引きつっていたかもしれません。翌朝船上でいただいたイカの刺身の味は今も忘れることができません。帰りには大きな発砲スチロールの箱に詰められた魚を土産としていただきました。団体戦での全国大会初出場の喜びとともに、私にとってはもうひとつの掛け替えのない喜びとなりました。

私は、まだまだ狭い価値観の中にある高校生と社会を繋ぐ役割をするのが教師としての大事な仕事だと思っています。そのために、生徒の服装や言葉遣いの指導を日々積み重ねることを大切にしたいと思っています。

(平成六年八月)



優しさが受け継がれている

「ウチの息子も下農の卒業だから」と言つて森林組合の方が畜舎の床敷きオガ粉を無償で分けてくださいます。オガ粉を袋に詰める作業は大変で、目や鼻、耳の穴の中までホコリだらけになります。いつも袋に詰めてもらい、トラックに乗せてくださいます。

「息子は毎日元氣に通つて本当に楽しそうだったな。先生、よろしくね。頑張つてね」と。床敷きを新しくすると牛は頭から飛び込み、顔を真っ白にしてフカフカの布団を喜ぶ子どもの様にはしゃぎます。その姿をみて、生徒は「カワイイ！これからも綺麗にしてあげるね！」と作業に励んでいます。

卒業生から在校生へ。優しさが受け継がれている素敵な学校だなと思ひました。

(平成二十六年九月)

最後の授業

三年生最後の授業。

終わりのチャイムが鳴ると、全員起立して、代表の生徒が「先生一年間だったけどありがとうございますございました。先生の授業はとても楽しかったです。この授業を選択してよかったです」との突然のあいさつ。色紙とみんなで購入した大きなプレゼントをいただきました。

突然の出来事でびっくり。何か青春ドラマの一場目のようで、感激でウルウルでした。いたいたい色紙とプレゼントを写真に撮つてしまいました。色紙には、全員の寄せ書き。温かな言葉がこぼれ出て、ジーンとしました。私の宝物がまた一つ増えました。

(平成二十八年一月)

先生に教えてもらいたい

四人の生徒が校長室にやってきました。いきなり、「先生にお願ひがあります。〇〇先生が転勤するつて聞きました。本当ですか。先生お願ひですから、〇〇先生を転勤しないようにしてください。お願ひします」と手を合わせ深々と頭を下げられました。そして、「〇〇先生に教えてもらつて、また〇〇大会に行きたいです」と言われ、胸がジーンとしました。その後も違う生徒から同じようなことを言われました。

「先生に教えてもらいたい」こんな素晴らしい言葉、教師冥利に尽きます。こんなことを言われる先生つてすごいです。下農にはこういう先生がたくさんいます。

(平成二十七年十二月)

みんなで拾ってくれた

ある秋の朝、生徒が鼎駅から坂道を上つて登校中。生徒の前を歩いていたおばあさんが、一休みをした途端、ネットに入っていたミカンが落ちてしまい、坂道を転々、生徒の列に転がってきました。

その場面に遭遇した生徒たちは、誰一人無視することなく、ミカンを拾ひ、持てるだけ持つて、おばあさんの袋に入れてやつて、何もなかったかのように登校したのです。

おばあさんは、「そこにいた下農生が、みんなで拾つてくれて助けてもらった。とつても嬉しかった」との電話をいただきました。

私は、登校中の生徒がみんなで拾つてやつたところ感激しました。下農生はやつぱりやさしいですね。

地域の人からのメール

先日見かけた光景に心暖まり、メールを送らせていただきました。

某スーパーで見かけた光景です。私は、あーっと言う声とドタンという大きな音で気づいたのですが、おじいさんがエスカレーター前で転けてしまったのか、転けた状態でそのままエスカレーターに引っ張られてしまった様でした。私があっ！と思った瞬間には下農の生徒さん（男子2人）は走っておじいさんを助けに行きました。エスカレーター中間地点でようやく店員さんもきて緊急停止したのですが、その後、生徒さん2人がおじいさんを支え通路まで運び「おじーちゃん大丈夫？」と声をかけていました。

人を助けるのは当り前のことですが、とっさの判断でなかなかそこまでできる人は今の世の中少ないと思います。恥ずかしい事に私も、あっとは思ったものの体がすぐ動かず、ただ見守ることしかできませんでした。

何の迷いもなく瞬時に動いた彼等の行動に感動し心暖まりました。私も彼等を見習い頑張ろうと思います。

これからも頑張ってください。

申し訳ありませんが名前は控えさせていただきます。

（平成26年11月）

文化祭があるので来てください

稲丘祭中、ある年配の女性に声をかけられました。

「聞いてもらいたい話があるのですけれど」そこで話をお聞きすると、「夏前に、高速バスで東京に行った際、隣に下農生が座り、いろいろな話をしてくれました。学校のことや自分のこと、進路でいろいろ悩んでいることなど。たまたま隣に座った私に親しげに話をしてくれたその姿にとっても好感が持てました。その彼女が、十一月に文化祭があるのでも来てくださいね、と言っていたので来ました。でも、午前中来たけれど、その彼女には会えず、また誰にもこの話をできなかったもので、これかに聞いてほしくて、午後また来ました」とのことでした。聞いているこちらが温かい気持ちになりました。

（平成二十七年十一月）

本気で言ってくれた

時々、授業中に注意するある生徒がいます。その生徒が、最後の授業が終わってから、部屋に来て言うのです。

「先生は私に本気で言ってくれた。そういう先生が好きです」…。そんなことを言ってくれるなんて、びっくりでした。その後、授業をもつことがなくなった今でも、その生徒は私のところに来て、いろいろな話をしてくれます。（平成二十八年一月）

園児をまとめて連れて行った

文化祭の人形劇をみたくて、友人の園児四人を連れて行ったところ、Iさんという男子生徒に場所を尋ねたら、人混みの中を上手にまとめて連れて行ってくれた。Iさんにお礼を言いたいと言って電話をいただきました。（平成二十八年二月）

やお風呂を次に使う人への配慮もできないような人は、泊まっていたかなくても結構です。他の宿をお探してください。」「この状況を見て、あなたはこのお風呂に入りたいと思いますか？」などと声を荒げたこともありました。

今どきの若い子は、常識に欠け、マナーがなっていない。正直な話、学生さんからの予約は、気が重かったのです。

しかし今回、御校の木下先生・本島先生率いる剣道部の生徒さんに感動いたしました。こんなにも礼儀正しく、マナーの良い、先生・生徒さんがいらっしゃることを知りました。木下先生・本島先生の志がすばらしく、ご指導も優れていらっしゃる。また、生徒さんもお指導に沿い、素直に育っていらっしゃるんだと感心いたしました。こんなにも素敵な先生や生徒さんがいらっしゃる御校は、さぞ素晴らしい学校と想像し、とても好感が持てます。

御校の生徒さんが、試合などで諏訪へいらっしゃる際は、ぜひ当民宿にお泊りいただきたく願っております。

最後に校長先生にお願いがあります。どうか、木下先生・本島先生・剣道部の皆さんに、利用した民宿のおかみさんから感動した手紙をもらったとお伝え願えませんでしょうか。

館内の利用状況から、皆さんの真の心が見え、温かさ優しさ、聡明さが伝わってきました。ご利用いただきありがとうございました。またのご利用をお待ちしております。

主人・スタッフ共々感動いたしました。

長野県立下伊那農業高等学校の皆様のご健康とますますのご活躍をお祈りしております。

平成25年11月19日

初霜の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は、剣道部の皆様に当民宿をご利用いただきありがとうございました。

私は、諏訪湖畔で「〇〇」を経営しています、□□と申します。11月15・16日と、御校の剣道部の方々にご利用いただいた、素泊まりの民宿です。

クレームの電話や苦情の手紙が多い昨今、善い行いも他人を感動させ行動させることをお伝えたく、お手紙を書かせていただきました。

15日の朝に、「今日は2階が学生さんだからうるさいかもしれないよ！」と主人に話しました。他のお客様のチェックインの際も「本日は、2階が学生さんでうるさいかもしれませぬ。ご了承ください。」と申し上げ受付をしました。

下伊那農業高校のチェックインは、覚悟していたものと違い、とても礼儀正しいものでした。チェックイン後の利用状況においても、まったく音がしない。お風呂も入っていないかのようにきれいに使用していらっしゃいました。ビックリです。

「本当に学生が泊まっているの？それにしても、静かだな！」と、主人も驚いていました。

翌朝の清掃担当スタッフも、「布団はたたんであり、ゴミの分別もまとめも、きちっとしていて気持ちが良い。学生さんと聞いて覚悟していたのに、違うわね！」「とてもマナーの良い学生さん達ね！大人でもこうはいかないわよ！きっと担当の先生方がしっかりなさっていて、教育も行き届いているのね！」と、絶賛しておりました。

私は、これまで沢山の中学生・高校生を受け入れてきました。時にはマナーの悪さから、「宿泊している他のお客様や、トイレ

下農生のちょっとイイ話

発行日 平成28年 3月 1日

印 刷 龍共印刷株式会社
